



「信頼の鎖」の一翼を担う

既に日常業務や生活に欠かせなくなったインターネットであるが、情報の改ざんや漏洩などのリスクが潜んでいることも確かである。そこで、このようなリスクを回避するために考えられた「認証」は、インターネットの仕組みに詳しい第三者が、サイト(ホームページが保存されているコンピュータ)は安全という証明を行うものである。インターネットの利用者は、「このサイトは信頼できる。だから、ここが信頼できると言っている次のサイトも信頼できるだろう」と考え、信頼の鎖を伸ばしていく訳である。

金融も情報で成り立っている。企業から提供される継続的な情報により、証券価格が形成される。また、投資家は、情報を利用して、意思決定を行う。しかし、世の常か、情報が集まるところ、リスクがそこかしこに潜んでいる。情報自体の不正確性や、投資のリスクなどである。もちろん、自身でリスク察知能力を磨くことも大切である。が同時に、信頼の鎖を持つことも助けとなる。

基金にとっての信頼の鎖は、悩みを同じくする他の基金や、運用会社、コンサルティング会社などであろうか。弊誌も、信頼の鎖の一つとなれるよう、引き続き、価値ある情報発信に努めたい。

《目次》

- ・年金運用：年金運用改革の展望（上）
- ・年金運用：デフレ局面における株式運用の是非
- ・年金運用：万人のための年金運用入門（22）－ 株式アクティブ運用（4）